



希望に満ちた春を迎えよう！

2月4日の立春が間近となりましたが、これは暦の中のことで、2月は一年間の中で、もっとも寒いと言われる時期です。そんな寒さの中、校内の至る所で朝練習に励む生徒を見てみると、元気をもらったようで頑張らなければと自分を励ましています。

いよいよ3年生は、進路決定の季節を迎えました。2月3日の公立高等学校の選抜Iと私立高等学校の推薦入試を皮切りに、入学試験が本格的にスタートします。この15の春の試練を乗り越えてこそ、希望に満ちた春を迎えることができます。インフルエンザの流行が心配ですが、これまで培ってきた力を発揮し、希望の進路をつかむことができるように願っています。

社会性を身につける第一歩は家庭のルールづくりから

本校では、ルールやマナーが守れる生徒の育成をめざしています。ある本によると、子どもにとって家庭の約束事がある家庭とそうでない家庭では、子どもの行動の仕方かなりの差が生じてくるそうです。

門限はもちろん、食事の仕方、外出時の約束、娯楽の時間などルールのある家庭の子どもは動きは節度があり、場の雰囲気流されることなく行動できるとあります。

私も、家庭にある約束事は、子どもの生き方を決める価値観に大きく影響するものと考えます。我が家も子どもの成長に応じて約束事を決めてきました。それは、家族が一つ屋根の下で暮らすうえで必要な事であったり欲しい物がある時の事だったり、その時々に応じて様々な約束事やルールを設けてきました。

子どもは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係のあり方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

家庭のルールには、あいさつ、帰宅時間、就寝時間、食事をする時のマナーなどの生活上のものもあれば、他人に迷惑をかけない、うそをつかないなどといった道徳上のルールもあります。しっかりと身につけさせるためにも、親がよく考えてはっきりしたルールをつくり、子どもと共に親もそれを守る必要があると考えます。

また、中学生になったら子どもの意見を聞いて一緒にルールをつくるという姿勢も、大切なのではないのでしょうか。

信頼の始まりはあいさつから

あいさつは、日々のコミュニケーションであり、信頼関係の基礎である。あいさつが自然に交わし合える学校や地域でありたいものです。

『あ』→ 明るく笑顔で、気分良くあいさつをしよう。

『い』→ いつも自分から、誰に対してもあいさつをしよう。

『さ』→ 先に気付いて、お辞儀を含めてあいさつをしよう。

『つ』→ 続けて毎日、あいさつをしよう。

あいさつは世界共通の行動であり、属する社会やその文化の違い、あいさつする場面によって変化します。私たちは道行く人々には誰にでも、たとえ見知らぬ人でも声をかけてきました。あいさつが出来ない者は恥とされ、一人前とはみなされませんでした。

今でもビジネスの世界、親戚や近所関係など各コミュニティの中ではそういった傾向が見られます。最も基本的な日本の慣習であるといえます。